

特集 1 平成 28 年の家計消費の概要（家計調査年報より）

長崎県県民生活部統計課

家計調査は、全国 168 市町村で、標本調査の方法に基づき抽出された約 9,000 世帯を対象に、毎日の収入と支出を家計簿に記入していただくことによって、国民生活の実態を家計収支の面から明らかにするための調査で、昭和 21 年から実施されている。

本県においても、長崎市（104 世帯）、佐世保市（39 世帯）、平戸市（13 世帯）が調査地域として総務省より指定されている。

調査結果は、我が国の景気動向の把握、生活保護基準の検討、消費者物価指数の品目選定及びウエイト作成などの基礎資料として利用されているほか、地方公共団体、民間の会社、研究所あるいは労働組合などでも幅広く利用されている。

「平成 28 年家計調査年報」にて公表された、県庁所在市である長崎市の家計消費（二人以上の勤労者世帯）の概要は以下のとおりである。

1. 家計の収入と支出

平成 28 年の長崎市の勤労者世帯（いわゆるサラリーマン世帯）の実収入（1 か月の平均値：以下各項目同じ）は 475,094 円で、前年に比べ名目 5.8%、実質 5.5% の増加となった。また、消費支出は 306,354 円で、名目 6.7%、実質 6.5% の増加となった。

全国の勤労者世帯の実収入は 526,973 円で、前年に比べ名目 0.2%、実質 0.3% の増加となった。また、消費支出は 309,591 円で、名目 1.8%、実質 1.7% の減少となった。

勤 労 者 世 帯	長 崎 市	全 国
集計世帯数	40 世帯	3,802 世帯
世帯人員	3.33 人	3.39 人
有業人員	1.78 人	1.74 人
世帯主の年齢	49.5 歳	48.5 歳
実収入	475,094 円	526,973 円
名目増減率	5.8%	0.2%
実質増減率	5.5%	0.3%
消費支出	306,354 円	309,591 円
名目増減率	6.7%	1.8%
実質増減率	6.5%	1.7%
可処分所得	380,904 円	428,697 円
名目増減率	4.1%	0.3%
実質増減率	3.9%	0.4%

実収入：いわゆる税込み収入であり、世帯員全員の現金収入を合計したもの

消費支出：いわゆる生活費のことであり、日常の生活を営むに当たり必要な商品やサービスを購入して実際に支払った金額

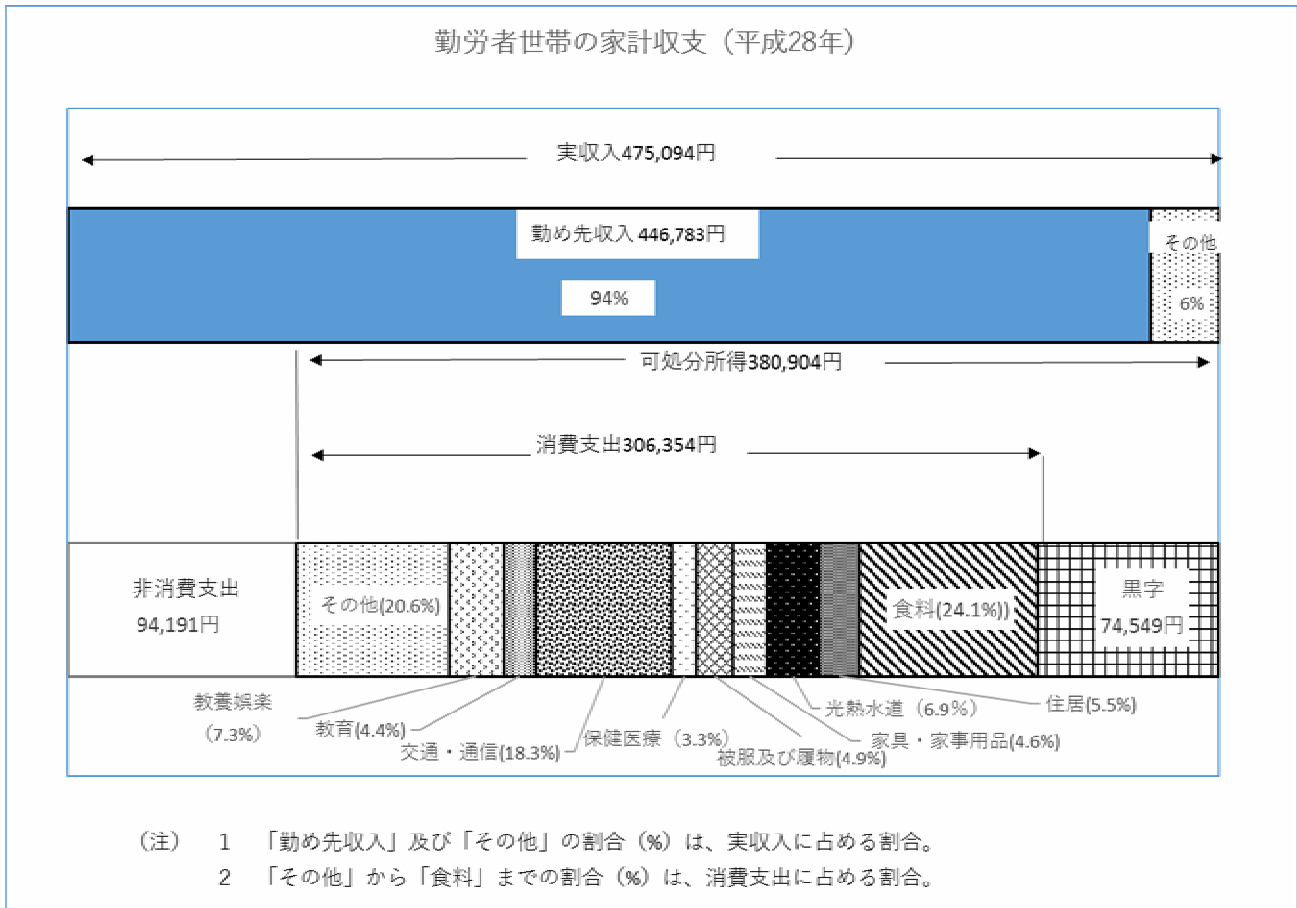
可処分所得：実収入から税金、社会保険料等の非消費支出を引いた額で、いわゆる手取り収入

名目増減率：実際に支出した金額の伸び

実質増減率：消費者物価の変動分を除いた支出金額の実質的な伸び

$$\text{実質増減率} = ((100 + \text{名目増減率}) \div (100 + \text{消費者物価増減率}) - 1) \times 100$$

勤労者世帯の実収入と消費支出の内訳（長崎市）



実収入（1ヶ月の平均収入）の推移（全国、長崎市）

（単位：円）

	平成 18 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
全国	525,719	518,506	523,589	519,761	525,669	526,973
長崎市	407,873	403,123	477,193	435,732	449,222	475,094

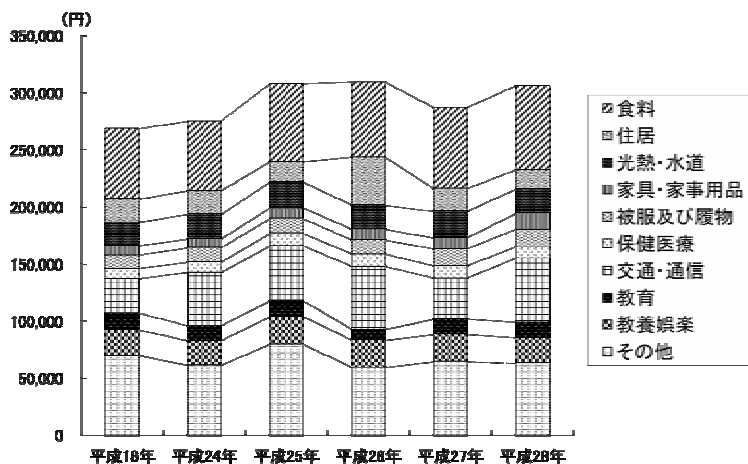
平成 28 年の長崎市の実収入は、平成 18 年と比較すると 16.5% 増加している。

勤労者世帯 10 大費目消費支出の推移（長崎市）

（単位：円）

	平成 18 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
食料	61,934	61,276	68,515	65,525	71,131	73,756
住居	22,850	20,417	17,712	42,067	19,738	16,863
光熱・水道	21,717	21,483	22,726	21,231	23,407	21,240
家具・家事用品	9,722	7,761	9,175	9,296	9,702	14,185
被服及び履物	13,483	12,662	13,127	12,340	14,689	15,118
保健医療	11,746	9,017	11,027	10,774	10,876	10,002
交通・通信	35,349	46,900	47,818	55,333	35,713	56,182
教育	14,750	13,009	14,194	9,203	13,631	13,424
教養娯楽	24,806	21,457	24,328	24,052	23,696	22,403
その他	62,210	61,332	79,525	59,474	64,628	63,181
消費支出計	278,566	275,314	308,147	309,296	287,211	306,354

近年の消費支出の傾向としては、交通・通信費の増加が挙げられる。平成18年と平成28年を比較すると、交通・通信費は6割程度増加している。これは、自動車等関係費の増加が大きかったこと、近年のスマートフォンの普及に伴う通信費の増加によるものと推測される。



2. 家計調査にみる品目別支出金額及び購入数量

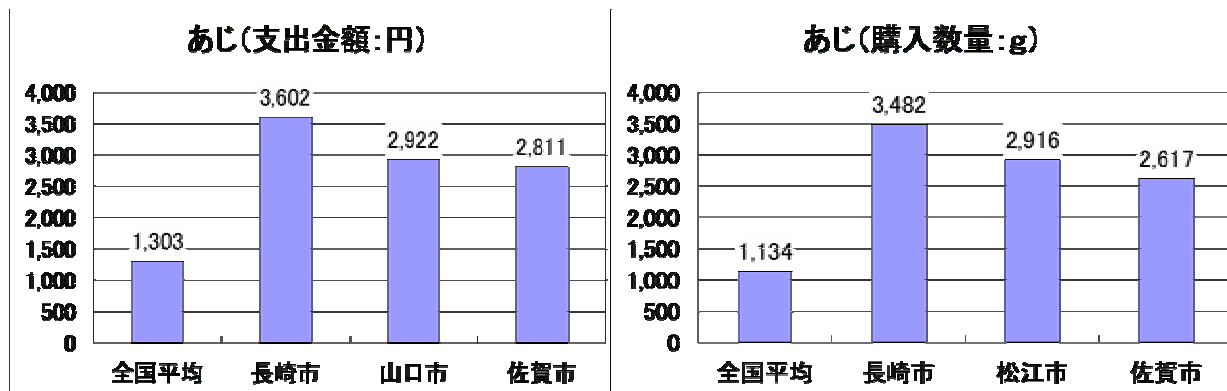
我が国は、南北に長い国土を持ち、地方ごとの異なる文化や風土の下、地方によって家計における消費の内容は大きく異なると言われている。

そこで、家計調査（二人以上の世帯）品目別都道府県庁所在市及び政令指定都市ランキング（平成26（2014年）～28年（2016年）平均）から、長崎市の支出金額や購入数量について、特徴的な品目をとりあげてみた。

（以下、全て1世帯当たり年平均の支出金額、購入数量（二人以上の世帯））

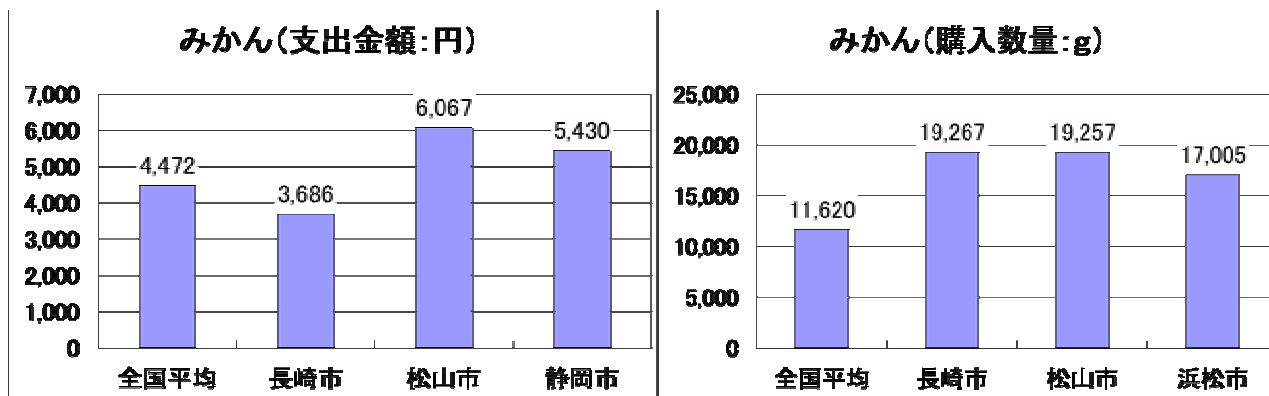
あじ（支出金額、購入数量）

あじは支出金額、購入数量ともに全国1位であった。支出金額は3,602円で全国平均1,303円の約2.8倍、購入数量は3,482g、全国平均1,134gの約3.1倍であった。



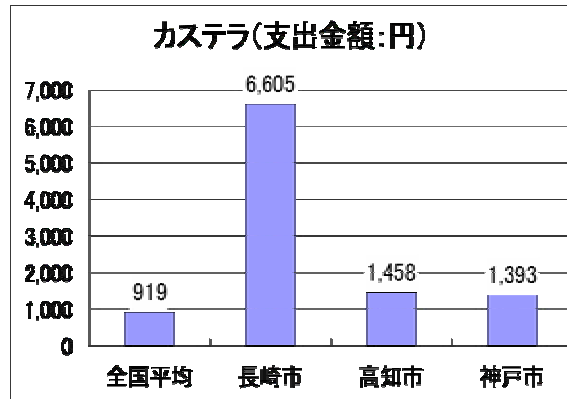
みかん（支出金額、購入数量）

みかんの購入数量は19,267g、全国1位であった。一方、支出金額は全国平均4,472円を下回った。長崎市において、みかんの価格が低いものと推測される。



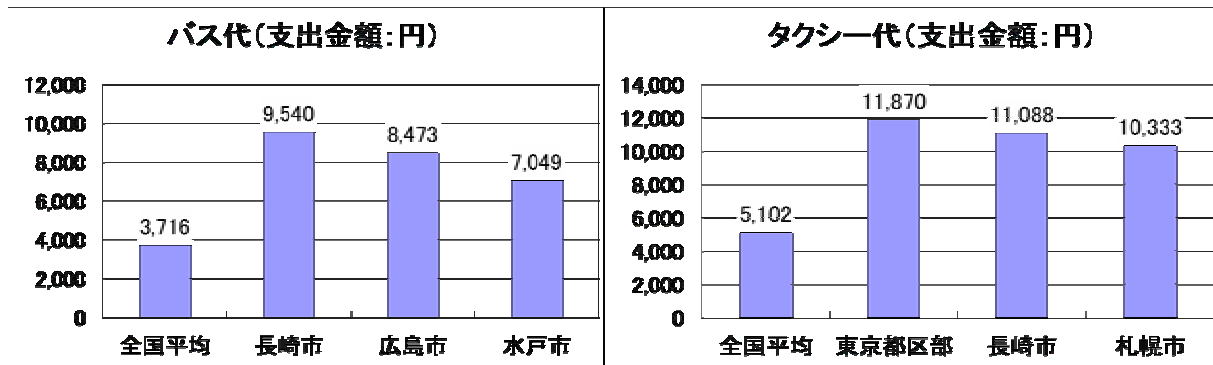
カステラ（支出金額）

カステラの支出金額は6,605円、全国平均919円の約7.2倍、全国1位であった。カステラは長崎を代表する菓子であり、贈答品としても需要がある。



バス代、タクシー代（支出金額）

バス代の支出金額は、9,540円で、全国1位、タクシー代の支出金額は11,088円、全国2位であった。長崎市内は坂や階段の多い地形であるため、バス、タクシーを利用する頻度が高いものと思われる。



3. 平成28年の家計をめぐる主な出来事

マイナンバー制度の運用開始（1月）

日銀が金融機関の当座預金の一部にマイナス金利を適用（2月）

国民年金保険料の引上げ、雇用保険料の引下げ（4月）

電力の小売自由化により、家庭でも小売電気事業者を選択可能に（4月）

8月11日が山の日として国民の祝日に（8月）

厚生年金保険料率の引上げ（9月）

最低賃金が25円引上げ。比較可能な2002年以降引上げ幅最大（10月）

映画「君の名は。」や「シン・ゴジラ」などヒット作が相次ぎ、興行収入が過去最高を記録

訪日外国人旅客数が、前年（2015年）の1973万7千人を400万人以上回る2403万9千人と過去最多。ただし、一人当たりの旅行支出は前年に比べ減少

家計調査年報は、家計調査で得られたデータを基に、総務省統計局が公表しています。家計調査年報は長崎県県民生活部統計課内の統計資料室で閲覧できる他、政府統計の総合窓口 e-stat (<http://www.e-stat.go.jp/>) からもご覧いただけます。

注) 長崎市においては調査世帯が少なく、結果が大きく変動することがあります。